



飼い主の方に守って欲しいこと



犬は単なるペットという域を超えて「パートナー」「コンパニオン・アニマル(伴侶動物)」と呼ばれることがあります。しかし、毎年犬に関する苦情が寄せられ、その大半は飼い主による不適正な飼養が原因です。飼い主には動物が健康で快適に暮らせるように、動物の命が終わるまで適切に飼い(終生飼養)、社会や近隣に迷惑を及ぼさないようにする責任があります。犬を飼うにあたっては、犬の習性を十分に理解し、ルールを守った正しい飼い方に努めましょう。

①犬の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼うこと

犬はテリトリーを守るために威嚇・攻撃を行ったり、縄張りを主張するためにマーキング(尿)をします。また、逃げるものを追うといった習性もあるため、こうした習性を正しく理解したうえで、パートナーとして接することが大切です。

飼い主は犬の健康や安全に気を配り、その命を終えるまで飼う責任があります。どうしても飼うことが出来なくなった時は、新たな飼い主を探しましょう。

また、無計画に子犬を増やさないようにするため、不妊・去勢手術をすることも重要です。



②他人に迷惑をかけないようにすること

散歩の際にはリードを着け、フンを処理するためのスコップやビニール袋、排尿時に洗い流す水等を入れたマナーバックを携帯し、公共の場所を汚さないようにしましょう。

また、適切なしつけや訓練をして、人に危害を加えたり、鳴き声などの騒音で他人に迷惑をかけることがないようにしましょう。

*しつけとは、【ダメ】を教えるのではなく、【こうすれば良い】ということ伝えることです。



③災害に備えること

日本は地震大国のため、いつ大規模災害が発生するか分かりません。災害に備え、普段から下記事項を心掛けましょう。

- <1>ペットを連れていける避難所を確認しておきましょう
- <2>ゲージやキャリーバックに慣れさせておきましょう
- <3>万が一迷子になってしまった際に飼い主探しを容易にするため、鑑札やマイクロチップを装着しておきましょう

*災害時の避難方法には「同行避難」と「同伴避難」があります。「同行避難」とは避難所までペットと一緒に避難し、その後、別々の場所で避難生活することを言い、「同伴避難」は避難後も同一施設内で一緒に避難生活をするを言います。避難所がどのような形態か確認しておきましょう。

